

英語を習得するためには何が必要だろうか。これまで高校で12年、高専で8年、大学で6年、英語教員として教壇に立つてきた。その経験から感じてきた英語習得法をお伝えしたい。

まず、正しい発音を身につけること。発音が不正確では意図が相手に正しく伝わらない。でも英語の音をカタカナに置き換えないでほしい。日本語と英語は音の体系が根本的に異なり、

想



うえすぎ ゆうこ
上杉 裕子

英語力の磨き方

カタカナに頼るほど正確な発音から遠ざかる。発音記号の仕組みを理解し、英語母語話者の発音を手本にすることが正しい発音への近道なのだ。

次に、音声とともに英語を「体で感じる」こと。音とリズムを全身で受け止めてこそ、英語は自分の言葉として息づく。インターネット、テレビ、ラジオ、映画、洋楽など、英語の音声に積極的に触れよう。興味のある

書籍を読む時にも音読を取り入れれば面白さは深まる。

一日の終わりにその日の出来事を英語で表現してみることも効果的だ。簡単な動作を表す英語すら思い浮かばない自分に気が付き、必要な表現を自ら調べることになる。

英語は使つてこそ意味がある。間違いを恐れず、英語を使う場を自ら「つくる」「求める」ことが大切だ。外国人に話しか

ける、外国人が集まる場に参加するなど、行動次第で機会はいくらでも広がる。間違いは恥ではなく、英語力を磨く糧になることを忘れないでほしい。

私自身も英語教員として教授法を磨き、学び続けたいとの思いがある。今年8月から8カ月間、協定校であるハワイ大学マノア校第二言語研究学部に客員教授として赴任する予定である。この3年間は、同大学との

オンライン交流授業で、学生たち「本場」の英語と異文化に触れる機会を提供してきた。国際交流を通じて英語力を伸ばすことは実に楽しい。

一つの言語を身につけることは、もう一つの人生を生きることに近いと感じている。英語学習は楽しくなくては続かない。外国語を身につける喜びをぜひ見つけてほしい。

（観啓大教授）